

名古屋工業大学第 33 回技術研究発表会 参加報告

三重大学 工学部・工学研究科 技術部

○深澤 祐樹 (計測・情報システムグループ)

fukazawa@arch.info.mie-u.ac.jp

田村 雅史 (機器・分析グループ)

tamu_m@chem.mie-u.ac.jp

1. はじめに

平成 29 年 9 月 15 日(金)に、名古屋工業大学にて開催された名古屋工業大学第 33 回技術研究発表会^{*1}へ聴講参加を行ったので報告する。

2. 名古屋工業大学第 33 回技術研究発表会

2.1 開催概要

本発表会は名古屋工業大学より 6 件、学外より 3 件の教育・研究支援、技術開発報告、研修報告などの発表が行われた。また学外からの参加者を対象とした情報基盤センター、実習室や研究設備などの学内施設見学会も行われた。

三重大学からは機器・分析グループ 田村 雅史、ほかの連名で「三重大学における共同利用機器の管理・支援体制強化の取り組み」の発表を行った。

2.2 プログラム

本発表会では以下のとおり、計 9 件の口頭発表が行われた。

10:10- 口頭発表 (名古屋工業大学技術部より 4 件)

13:30- 口頭発表 (静岡大学, 三重大学, 鳥取大学技術部より 3 件)

14:40- 口頭発表 (名古屋工業大学技術部より 2 件)

17:30- 学内施設見学会

3. 注目した発表内容

聴講にあたり、特に注目したのは名古屋工業大学より発表の「水銀に関する法改正および本学の対応」である。これは 2017 年 8 月 16 日に施行された、水銀のライフサイクルのすべてを規制対象とした初めての条約である水俣条約対応のための取り組みに関する発表である。水銀は毒劇法上で毒物と指定され、適切な保管と管理が定められている。名古屋工業大学内では 2017 年 2 月ごろより全学を対象に、教育・研究用として水銀を利用した機器について継続使用、廃棄などの希望調査を行い、薬品管理システム上の登録の確認や、登録違いのデータおよび現物廃棄済みのデータの修正を行った。発表ではこの調査の結果、薬品管理システムと実際の保有量が一致したと考えられ、今後は毎年度末に現地調査を継続するとの報告があった。三重大学でも水俣条約への対応のための取り組みを進めており、大変参考となった。

4. まとめ

教育・研究支援、技術開発に関する取り組みや研修報告、他大学の技術職員との交流などを通して、技術開発に対する熱意や意欲を深める良い機会となった。今後も三重大学における教育・研究支援活動のため技術習得および向上に努めたいと思う。

謝辞

名古屋工業大学技術研究発表会に参加の機会を与えていただいた三重大学の皆様、また開催に関わった名古屋工業大学の皆様にご場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

参考文献

1) 第 33 回技術研究発表会の開催について <http://www.tech.nitech.ac.jp/news/492/>